

大里地区租税教育推進協議会長賞

「税とわたし」

熊谷市立三尻中学校 三年 小杉 陽香

私は社会の授業が好きです。特に、中学一年と二年で学習した日本の歴史は、私にとって興味深いことの連続でした。そして、その中でも印象に残っていることのひとつに、江戸時代の百姓一揆があります。多くの農民が、年貢の取り立てに苦しめられ、しばしば百姓一揆が起きたことを学び、「年貢イコール悪」と思うようになってしまいました。そして、今の時代、「年貢」というのは名を変え、「税」という形でやはり人々にとって負担に感じる存在であるように思えてなりませんでした。私自身、お年玉やお小遣いを必死に貯めて、ついに自分で最新式の携帯電話を約三万円で購入しましたが、その時、千四百円余りが消費税だとわかり、少し複雑な気分になりました。そして、同時に、消費税なんてなくなればいいのに。そうなれば、負担のない、最高の世の中になるのではと考えるようになってしまいました。しかし、私のそのような考えを一変させることが起こりました。

平成十九年七月十六日、海の日。私は、三連休最後の日を満喫しようと思いつつも、遅い朝食をとっていました。その時です。いきなり弱い震動があったと思ったら、数秒後、テーブルの下に逃げ込んでしまいたくなるような大きな揺れが起こりました。私は咄嗟にテレビをつけました。するとどの局も緊急報道がなされようとしていました。そしてその瞬間、新潟県中越沖地震の被害の大きさを知りました。ライフラインがストップし、土砂や崩壊してしまった建物の下敷きになっている人を助け出そうとしている様子が報道されていました。そして、警察や消防関係の方々、余震などで自分の身に危険があるにも関わらず、人命救助に向けて必死で活動されている姿を目にしました。そして、次に私の目を引いたのは、自衛隊でした。断水の続く中、自衛隊の方々が、入浴できずにいる被災者のために入浴施設を提供したい、一日も早い復興のために活動されている姿を見て今まで抱いていたイメージが百八十度変わりました。私は以前、「自衛隊イコール軍隊」というイメージを強く持っていました。中学三年生になって、公民の授業で「日本国憲法」を学習したら、憲法第九条に違反しているのでは、と思ったことがありました。そして、彼らは公務員であるので多額の税金がそんなことに使われているなら、将来私は納めたくないと考えてしまいました。しかし、今回の中越沖地震を通して、いざ危機に直面したときに最も頼りになるのは、税金で運営されている国や市の管轄する機関であると強く感じました。これからは誇りを持って消費税を納め、将来はさまざまな税金を納めていきたいと決意しました。